

2.4 遠野市「すこやか親子電子手帳」(岩手県遠野市)

〔概要〕

岩手県遠野市は、平成17年10月1日に旧遠野市と旧宮守村が合併し、新「遠野市」として誕生しました。このことから、平成18年を新「遠野市」のまちづくり元年と位置付け、合併にあたって策定した「新市まちづくり計画」の基本理念と将来像を土台として、新市の基本構想を策定しています。保健・医療・福祉分野においては、それらの連携を図りながら、遠野型地域包括支援システムを推進し、すべての市民が、心身とも健やかに、いきいきと暮らし、助け合いながら輝くまちづくりに取り組んでいます。特に次世代育成支援においては、多様なニーズに対応した保育サービス、児童館や児童クラブの充実により、子どもの健全育成の強化を図るとともに、総合的な「少子化対策・子育て支援プラン」を確立し、安心して子どもを産み育てることのできる環境を目指しています。

すこやか親子電子手帳は、その基本構想を受け策定された遠野市地域福祉計画の7つの重点プランの1つ「健康なまち推進プラン－ICTを活用した健康づくり事業の充実」の中で平成20年度より取組が続けられています。この仕組みは、母子健康手帳に新たな項目を追加し、データの時系列などのグラフ化表示等を電子的に実現するシステムです。母親は自宅のパソコンや遠野テレビ端末、健康福祉の里のロビーに設置されたパソコンで従来の母子健康手帳で扱っている情報の表示やデータの入力をはじめ、色々な角度から情報が得られるダイナミックな育児書として活用することができます。将来的にはすこやか親子電子手帳の情報は、岩手県内の産婦人科に導入されていく予定の周産期電子カルテや、自宅や助産所に設置されるモバイル分娩監視装置などとも連携がとれるようになり、産婦人科医の不在や助産師健診の充実、小児科医の不足をカバーする保健師健診の充実等につながっていくことが期待されています。

〔コラム〕

(1) 遠野市健康なまち推進プランとすこやか親子電子手帳

遠野市では、「ねっと・ゆりかご」をはじめとしてICT(情報通信技術)を活用した健康づくりに力を注いできました。これを次の方針で推し進め拡充していく計画です。

I. ねらい

1 健康寿命を延ばす

- ①. 丈夫な体で元気に在宅で暮らすための自発的な「健康」生活の意識付け
- ②. 日々の健康管理や健診等、生活習慣病予防の地域普及
- ③. 病気にかかりにくい丈夫な体づくり(基礎体力)の醸成

2 健康地域コミュニティ形成

- ①. 高齢者の健康不安と閉塞感の解消・孤立化防止
- ②. 超高齢社会での医療費負担の軽減(地域医療を守ることにつながる)
- ③. 他の疾病予防活動との連動による健康づくりプログラムのネットワーク化

II. 活動推進体制・位置付け

1 遠野市健康づくり総合プログラムの推進

- ①. 地域ICT健康増進ネットワークプログラムを新設
- ②. 保健事業、健康スポーツ、生涯学習等と連動した健康づくりのネットワーク化の推進

2 健康情報の電子化と集積・利活用とネットワーク

- ①. コミュニティと運動等、生活習慣と調和させた「顔の見える」健康保持増進の形を人・通信を使ってネットワーク化し、新たな健康づくり支援と人材育成を図る。
- ②. 通信ネットワークにより、地域にない健康支援サービスの導入(遠隔コミュニケーション)で予防医療

2 先進的な事例紹介

を取り入れた健康づくりや疾病予防の普及。

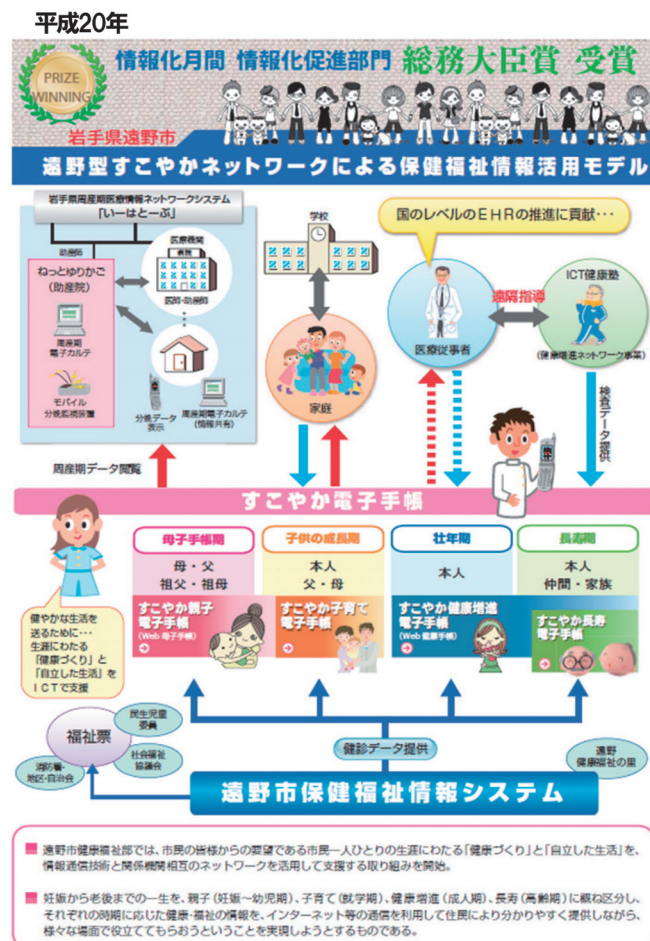


図1 遠野型すこやかネットワークとすこやか親子電子手帳の概要(平成20年現在)

すこやか親子電子手帳は次世代育成支援の重要施策となっており、利用者も年々増加しています。生涯に亘る個人の健康データを管理し、健康増進に資するための重要な仕組みとして期待されています。



(2) すこやかポータルサイト

市民や医療従事者などが、ケーブルテレビやインターネットから遠野型すこやかネットワーク(すこやか親子電子手帳等)にアクセスをする際のポータルサイトです。遠野市民向けのみならず、健康増進の知識やお産、子育て、長寿の参考となる知識を容易に提供できるようにしています。

(3) 遠隔妊婦健診とすこやか親子電子手帳

広大な面積に集落が点在する遠野市では、産婦人科医や小児科医の直接受診が制限されるため、周産期医療などで携帯モバイル健診や助産院での健診が始まっています。健診結果や日程等はすこやか親子電子手帳を通じて共有され、その効果をより大きくしています。



図2 遠隔妊婦健診とすこやか親子電子手帳

(4) 遠野市保健福祉情報管理システム

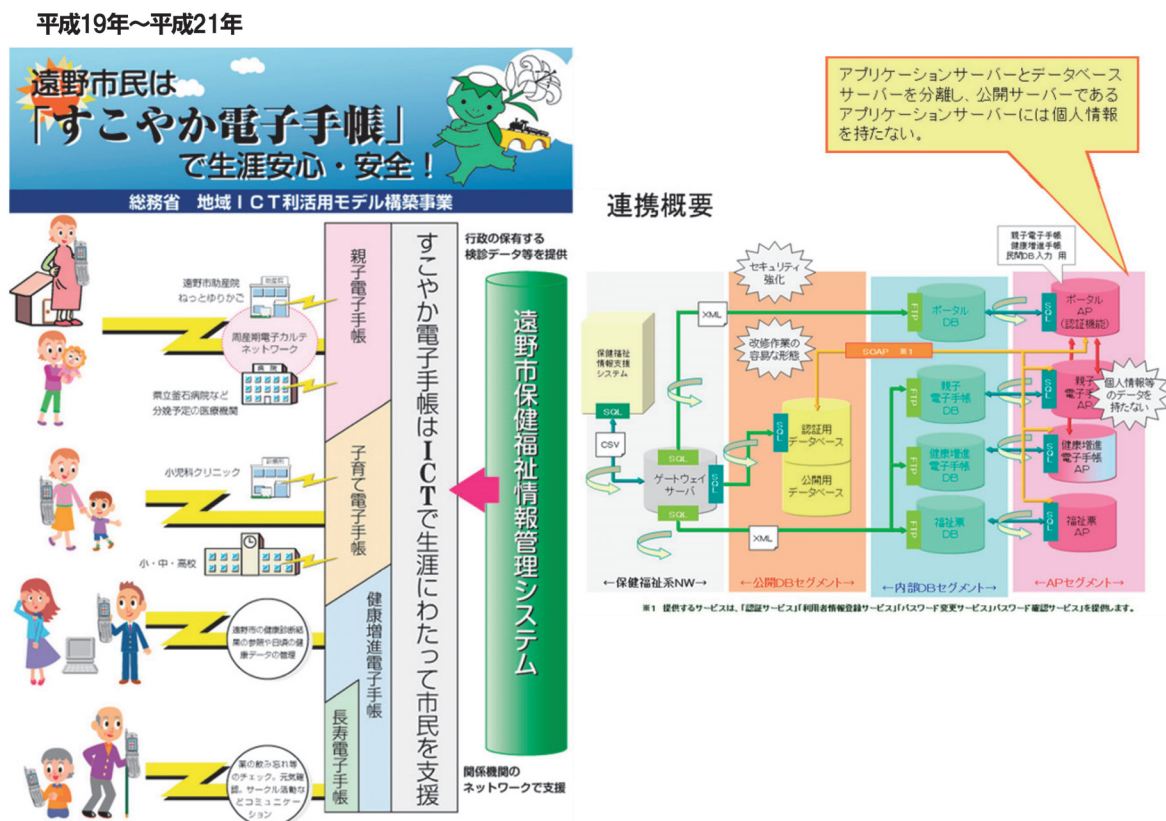
遠野市民の保健・医療・福祉情報を管理する基盤となるデータベースシステムです。すこやか親子電子手帳等と連動します。住民基本台帳データや世帯・家族の税データを本人の確認のもとに取り込むことで、一生涯にわたる各種健診や福祉サービス(障害、生保、保育所入所、施設入所、給付事業、等)が正確に満遍なく提供されます。

特定健診への対応や、市内企業との連携が必要となり、その時には、番号制度や住民基本台帳データ、課税台帳データなどとの正確な情報共有が求められます。

2 先進的な事例紹介

(5) システム概念図

インターネットを介して外部に公開される部分と内部の各機能間は厳密にセグメントを分け、個人情報に配慮したシステム構成としています。セキュリティに配慮しつつ、適切かつ効果的な連携を図るシステム構成になっています。



(6) 今後の展開

本稿でご紹介したすこやか親子電子手帳や遠隔妊婦健診の仕組みは、岩手県内の医療機関や市町村などの間をインターネット回線で結び妊産婦の健康情報や診療情報を共有して保健・医療関係者の綿密な連携を実現するシステムである「岩手県周産期医療情報ネットワークシステム「いーはとーぶ」」の中で、活用が拡大しています。

情報共有により妊産婦の方の負担軽減や、効果的な育児支援、医療機関の事務の効率化や重複検査等の防止による医療費の適正化などの効果がさらに拡大していくことが期待されています。

(問い合わせ先)

遠野市健康福祉部 保健医療課

TEL:0198-62-2111

URL: <http://www.city.tono.iwate.jp/>